

長崎北病院 伝言板 4月号

令和8年4月1日発行

4月。「卯月」。「卯の花月(うのはなづき)」が由来です。ところで「卯の花」ってどんな花? 「おから(豆腐の搾りかす)」じゃない? それも正解。花としてはウツギ(空木)の別名。5~7月に白い小さな花が枝を覆うように咲きます。卯の花が出てくる唱歌『夏は来ぬ』。一番の歌詞では、「♪卯の花の 匂う垣根(かきね)に時鳥(ほととぎす) 早(はや)も来(き)鳴きて忍音(しのびね)もらす 夏は来(き)ぬ。」。卯の花、時鳥(ほととぎす)。季語では夏です。

“楽しかった、本当に楽しかった”



4月1日は 当院が所属する社会医療法人「春回会」グループの入社式でした。今年は48名が入社。皆初々しく、緊張の面持ちです。でも、すぐに元気に羽ばたき出すと思います。働き出すと、1日24時間の1/3以上は仕事に費やす時間です。学生時代と比べると、自由な時間は少なくなります。やらされる仕事と考えるか自らの仕事と捉えるのか。どうせするならその時間が楽しくない、面白くない、嫌だなではもったいない。人生の中で大きな部分を占める仕事の時間。患者さんや社会のためになるのはもちろんですが、自分が楽しくてやりがいがないとつまらない時間になる。目を輝かせて元気に働くか、伏し目がちに行う作業か。同じ仕事でも患者さんや周囲への影響、結果は違うはず。今年の入社式では、北病院の紹介の時間で、3月で退職された看護師さんの話をしました。定年後も残って元気に働いておられました。家庭の事情で3月で退職されました。私の部屋を訪ねてこられて「先生、私今日が最終出勤日なんです。お世話になりました。約40年、北病院で働いてきたけど “楽しかった、本当に楽しかった”。先生も元気でね」と言って颯爽と帰っていかれました。



働いていれば 苦しい事、悲しい事、悔しい事色々あったはずですが、しかし 振り返って“楽しかった、本当に楽しかった”と言える40年。ありがたい言葉、最高のエールだと思います。新人の皆さんはこれからスタート。何年後かに振り返った時に“楽しかった、本当に楽しかった”と言える嬉しい。そういう病院でありたいと思いました。皆さんも直ぐには見つからないかもしれないが、「夢・目標・やりたい事」見つけてほしい。そのためには、まず目の前の仕事、やるべきことをしっかりやってみましょう。真剣にやれば何でも楽しくなる。その中から必ず自分のやりたいことが生まれ、それが夢となる。最初の一步。長崎大学の入学式で ジャパネット前社長の高田明氏が「夢を持つのは若い人の特権ではない。何歳になってもそのときの夢がある。夢を持ち続けることが一番大切。夢を諦めたら人生終わり」と述べていました。高田明。夢をもち続ける77歳。夢探しもまた楽し。北病院には29名が入社。4月1日は井上病院新外来棟で合同入社式。4月2日から当院で新人研修開始。4月3日は全体朝礼。新人の方々は毎日、講義や研修。まだ座学ばかりで眠くなるはず。大変です。私も3日連続で話す機会がありました。同じ話はず、時間に遅れないように、時間内で終わるように。それなりに大変です。4月の朝礼(3日)は新人紹介があるので私の喋る時間が少なくてラッキーです。それでも少しは話を。



現実的な話では最近の当院の収入・収益などの話。昨年とほぼ同じ収入ですが収益は減少。人件費増加は職員にとっては良き事ですが 電気、水道、医療材料、給食材料全てが上がって支出増。それで収益減。でも真っ当な医療を続けて患者さんに選んでもらうしか道はありません。最初の一步が「あいさつ」。病院は人と人。目を見て大きな声で挨拶を。目を見てしっかり大きな声で挨拶されると、誰でも嬉しい。返事を返したくなります。にこやかな挨拶をされると相手は「この人は悪い人ではない」「安心できる人」とわかります。挨拶一つで距離が縮まります。初めての人とのコミュニケーションもスムーズに入れます。挨拶は魔法の言葉です。(A.Sa)

